ASEAN・日本

CPTPP・ASEANの連携強化

ルールに基づく貿易体制の支持を確認、尼・比の加盟交渉開始も近づく

政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

1 「第1回CPTPP・ASEAN貿易投資対話」における共通理解

7つの共通理解
自由で公正で開かれた市場とルールに基づく貿易の不可欠性
多国間・地域間・二国間の貿易協定のコミットメント堅持・実施
貿易・投資ルールの透明性確保
持続的で包摂的な成長の実現
GVC強化による強靭性と競争力向上
市場歪曲的慣行・経済的威圧への懸念
データ取引の円滑化・信頼性向上

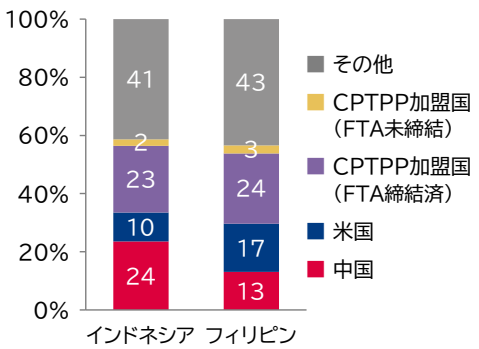
出所：「第1回CPTPP・ASEAN貿易投資対話」閣僚声明より三菱総合研究所作成

2 主な自由貿易協定（FTA）の交渉状況（ASEAN各国）

ASEAN	• 中国：改訂調印（10月） • 域内：改訂調印（10月） • カナダ：26年中の締結目標
インドネシア	• EU：交渉妥結（9月）
マレーシア	• EU：12年ぶりに交渉再開 • 韓国：交渉妥結（10月）
フィリピン	• EU：26年中の締結目標 • UAE：調印（11月）
タイ	• EU：26年中の締結目標 • 韓国：26年中の締結目標
ベトナム	• GCC：年内締結目標 • メルコスール：年内締結目標

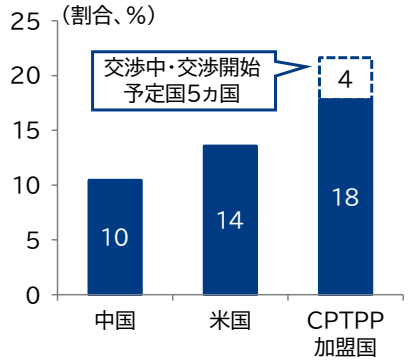
出所：各種資料より三菱総合研究所作成

3 輸出相手国構成（インドネシア・フィリピン）



注:2024年。CPTPP加盟国は、原加盟国11ヵ国＋英国。
自由貿易協定（FTA）には特恵貿易協定は含まない。
出所:ASEAN stats、JETROより三菱総合研究所作成

4 世界貿易に占める米国・中国・CPTPP加盟国の輸入額シェア



注:2024年。CPTPP加盟国は、原加盟国11ヵ国＋英国。
交渉中・交渉開始予定国は、コスタリカ・ウルグアイ・インドネシア・フィリピン・UAEの5ヵ国。
出所:WTO statsより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 11月下旬に開催された第9回TPP委員会において、ウルグアイ・インドネシア・フィリピン・UAEの4か国が「オークランド三原則※」を満たすと判断された。
  ※❶高水準を満たす用意、❷貿易コミットメント遵守の実績、❸締結国のコンセンサス
- ウルグアイは加入交渉開始が決定、インドネシア・フィリピン・UAEについては適切であれば26年以降に開始する方針だ。
- また、「CPTPP・ASEAN貿易投資対話」も初めて開催、ルールに基づく貿易体制の必要性や経済的威圧への懸念など、7つの共通理解を示された（図表1）。

ASEANにとっての意義

- ASEAN各国はトランプ関税や中国からの廉価製品の流入といった厳しい通商環境に晒されている。そうした中で、ASEAN各国は貿易相手国の多角化を急いでおり（図表2）、選択肢の一つとしてCPTPPへの期待は高い。
- インドネシア・フィリピンの加盟が実現すれば、加盟国との貿易増加が期待される（図表3）。加えて、CPTPPは国有企業や知的財産など、高水準のルールを定めており、加盟に向けて構造改革が進めば、対内直接投資の増加にもつながるだろう。
- ASEAN5では既にマレーシアとベトナムがCPTPPに加盟済みだ。唯一申請も行っていないタイも関心を持っているとされ、今回の進展をきっかけに申請に向けた動きが進むことが期待される。

日本にとっての意義

- 日本にとっては、インドネシア・フィリピンとは二国間EPAを締結しているが、ウルグアイやUAEとは未締結であり、貿易関係の強化が期待される。
- 加えて、日本が主導するCPTPPが中心となって、ルールに基づく貿易体制を堅持し、大国からの経済的威圧に対抗する仲間づくりが進みつつあることの意義は大きい。
- CPTPP加盟国の合計輸入額シェアは米国や中国を上回る（図表4）。「CPTPPが国際貿易システムにもたらす好影響を更に強化する」ため、基準を満たす国の加盟促進および、ASEANやEUなど同志国との連携を一段と進めることが求められる。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.